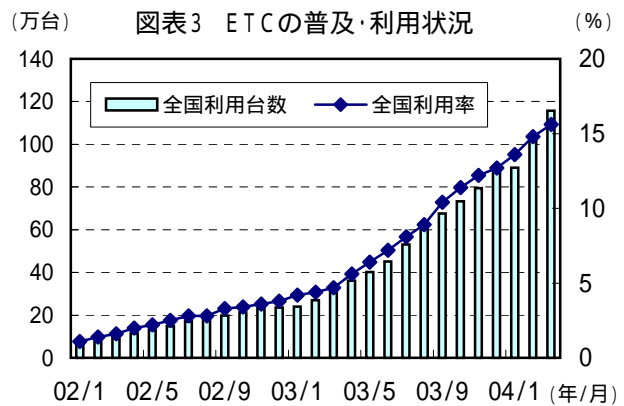
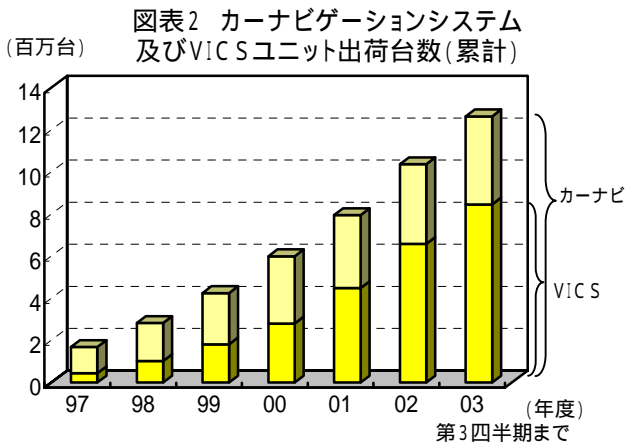
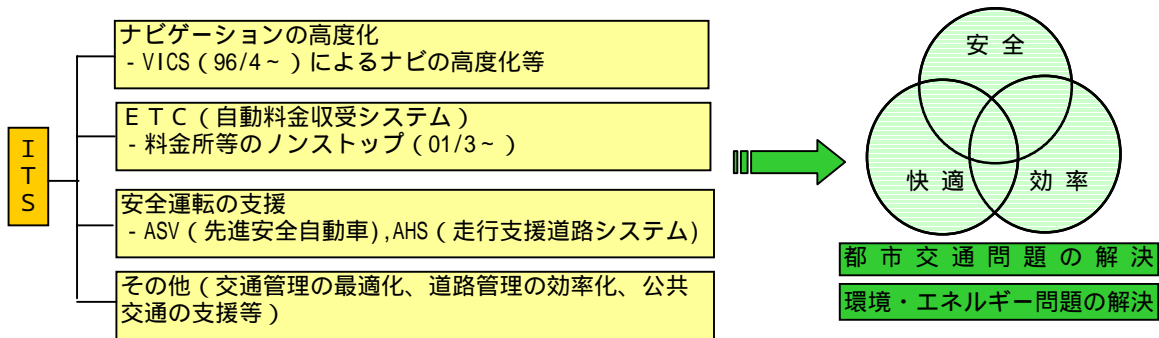


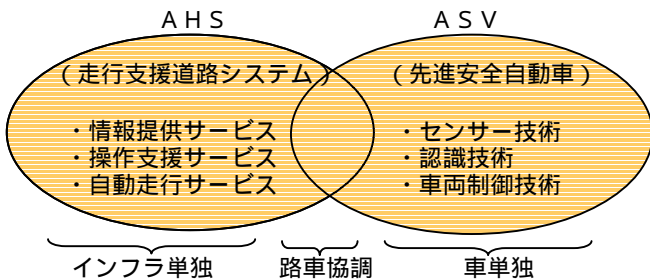
進展するITSの動向(1)

- ・ITS(高度道路交通システム)は、自動車と交通インフラをITによりネットワーク化することで、車の安全性、快適性(利便性)、効率性を高め、車社会の持続可能な発展を可能にするものである。
- ・一連の製品・サービスの中では、1996年4月にスタートしたVICS(道路交通情報通信システム)搭載カーナビゲーションの普及が先行しており、2003年末時点でカーナビ集荷累積台数は1,200万台、このうちVICS搭載機種は800万台に達している。また、2001年3月に導入が開始されたETC(自動料金収受システム)も、利用可能箇所の拡大、メーカーの機器コスト削減努力や各種の販売奨励策が奏功し、直近では一日あたり利用台数が100万台を突破、利用率も15%にまで上昇している。
- ・しかしながら、渋滞解消など所期の目的を達成するためにはVICS対応カーナビ、ETCとも更なる普及が必要である。特にETCについては、機器の価格低下や各種助成策と並んで商用サービスへの転用などの多目的利用を進めることが普及ペースを加速するうえで必要となろう。
- ・また、安全運転支援の分野では技術開発の進展を受けて実用化が始まっているが、今後は同分野における取り組みの強化が期待されている。

図表1 ITSの主要分野と普及拡大の意義



図表4 安全運転支援システム・技術の概要



図表5 ASVの導入実績 (台)

	2000年	2001年	2002年
カーブ警報装置	8,106	10,720	10,335
ブレーキ併用式定速走行装置	3,389	9,619	24,102
車線維持支援装置	-	947	422
ナビ協調シフト制御装置	193	203	192
居眠り警報装置	8,032	10,737	48,334

(備考) ITSハンドブック、道路交通情報通信システムセンター、電子情報技術産業協会、国土交通省発表資料等により作成。

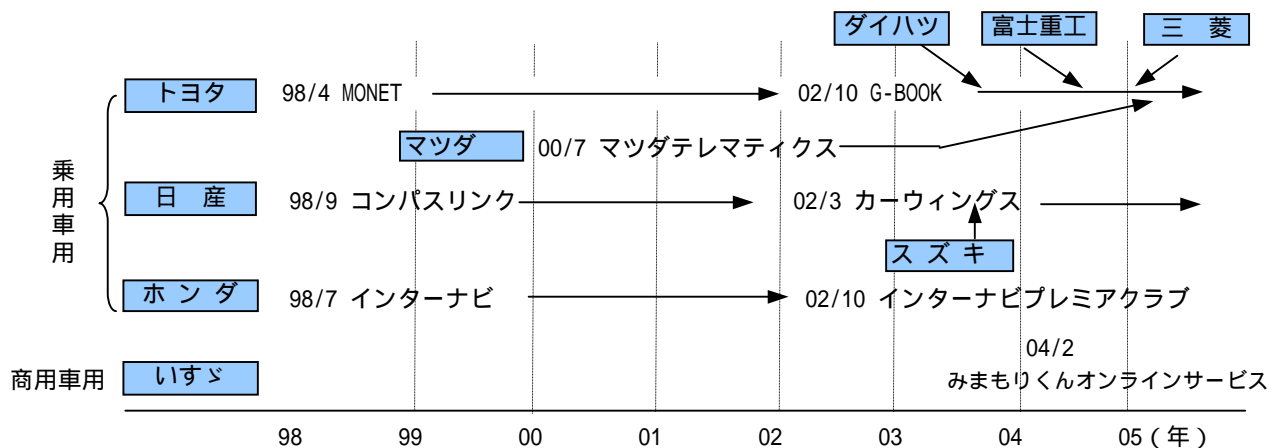
進展するITSの動向(2)

- ・ ITSは公共のインフラ整備を伴うものが多く、普及に時間を要するが、こうした中、ITを活用して車内への情報・サービス提供を行うテレマティクスが自動車メーカー主導で徐々に拡大しつつある。テレマティクスのサービス内容は、PCや携帯電話で受けられるサービスと同様のものに加えて緊急時対応サービスやリモートメンテナンスなどの車固有のサービスから構成されるが、具体的なサービスメニューは各社によって異なっている。また、ネットワーク効果の発揮される製品であることや投資負担が重いことから、自社開発をせずに他社製品の採用に踏み切る企業もでてくる。
- ・ 自動車メーカーにとって、テレマティクスはこれまで手薄であったアフターサービスの重点化など顧客情報管理の面で大きな威力を発揮するもので、本業の収益力強化にも大きな役割を果たしうる。また、テレマティクスのバリューチェーンは携帯電話のそれに近い形となっており、ハード、通信、コンテンツのそれぞれで自動車メーカー以外からの参入も多く見込まれる。
- ・ 車の保有台数は7,000万台を超えるが、この分野の情報化はまだ始まったばかりであり、潜在的市場規模は大きい。今後、ビジネスモデルの確立に向けて競争と協調が活発化するものと思われる。

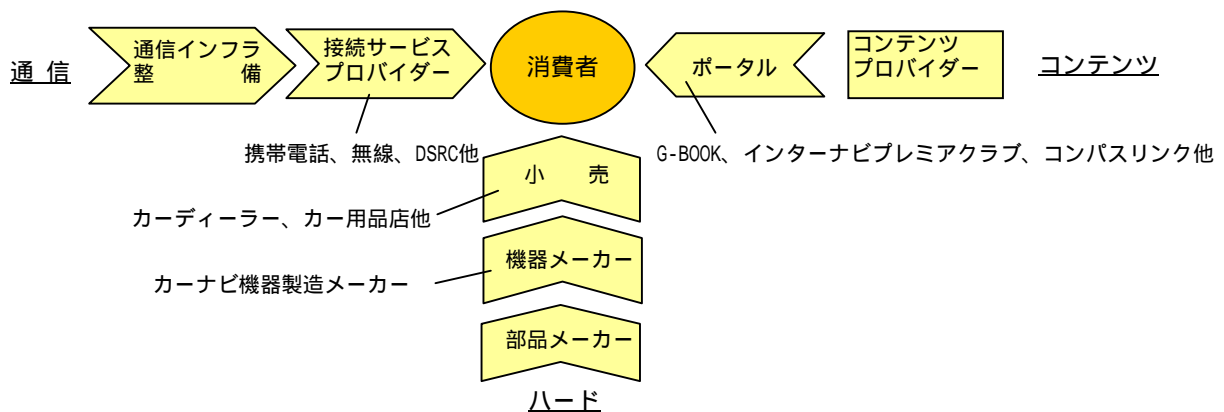
図表6 テレマティクスのサービス分類

分類	一般サービス	車固有サービス
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供（ニュース、天気予報、駐車場情報等） ・ エンターテインメント（音楽ダウンロード、カラオケ等） ・ コミュニケーション（Eメール等） ・ ショッピング等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナビゲーション ・ 緊急時対応（ロードアシスト） ・ リモートメンテナンス（車検、定期点検通知、消耗品交換時期通知） ・ 運行記録管理 ・ その他顧客サービス等

図表7 自動車メーカーによるテレマティクスの製品化状況



図表8 テレマティクスビジネスのバリューチェーン



(備考) 各種資料により作成。

[調査部(産業調査担当) 増田 真男]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp